

### 平成25年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「いきものみつけファーム in 松本」 イベント運営・情報発信・普及啓発事業
事業主体 (連絡先)	「いきものみつけファーム in 松本」 推進協議会. ・担当部署： いきものみつけファーム in 松本 事務局 ・担当者名： 田中 孝男 ・電話番号： 0263-50-5822 ・FAX 番号： 0263-86-0558 ・メールアドレス： ikimonomikke@nakajimaya.co.jp
事業区分	(5) 環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,114,680 円 (うち支援金： 836,000 円)

#### 事業内容

5月18日、総勢100人が参加する田植えイベントを開催した。昨年度に続き2回目ということでスタッフのスキルも向上し、円滑な運営ができた。また、今年からは参加費を徴収することとしたが、それにも拘わらず昨年からのリピーターを含む多くの参加者が得られたことは、イベントへの評価の高さを反映していると考えられる。

7月21日、トウモロコシの収穫と田んぼでの生きもの観察を行うイベントを開催し、子どもと保護者合わせて約50名が参加。生きもの観察では、自分たちが田植えをした田んぼに、ダルマガエルやヒメガムシなどが生息している様子を見て、豊かな生態系が形成されていることを実感することができた。

9月15日に稲刈りと生きもの観察イベントを実施した。雨天のため稲刈りは中止となったものの、カエルやバッタを中心に、様々な生きものが観察できた。運営面でもプログラムの変更等に柔軟に対応することができた。

11月16日、収穫したお米を松本市内のスーパーで販売するイベントを実施した。田植えから収穫、流通・販売までの一連の流れを体験することによって、自分たちの命を支える食べ物が、太陽や土壌、生物などの多くの恵みと、たくさんの人の手を通してできていることを、実感として学ぶことができた。



※1 自己評価 (事業実施率) **【A】**

## 事業効果

4回のイベントに、合計約250名の参加があった。300人には届かなかったが、今年度から参加費(1回500円)を徴収するようになったこと、稲刈りが悪天候で中止になったことを考慮すると、十分な成果であったといえる。全てのイベントに参加した子どもや、昨年度からのリピーターも多く、本事業が子どもを対象とした良質な体験・環境学習イベントとして認知されてきたことがみてとれる。

新たな団体・企業との連携は具体的には進んでいないものの、本支援金によるイベント及び環境省の「平成25年度地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業」による活動を通して、WIN-WINの関係による参加・協働の仕組みづくりを行ってきた。

各イベント前には、松本市内の小学校に10,000部のチラシを配布し、事業の周知・広報に努めた。また、地元紙やテレビ局などのメディアによって事業の趣旨やイベントの様子が掲載され、認知度向上に貢献した。

### 【目標・ねらい】

- 「いきものみつけファーム」の活動を自立的に継続していくための基盤が形成される。
- 「いきものみつけファーム」で実施するイベントに300名の参加が得られる。
- 「いきものみつけファーム in 松本」への参加・連携・協働を行う団体・企業が増加する。
- 事業に関する認知度が向上する。

※2自己評価(事業効果) **【B】**

## 今後の取り組み

2014年2月1日に、滋賀県で同様の取り組みを進めている協議会を招き、環境と経済の好循環を目指す「いきものみつけファーム」を具体的に知り、深め、広めることを目的としたフォーラムを開催する。同フォーラムを通して、事業の趣旨に賛同する企業の参加・協力を呼び掛けるとともに、企業にとってもメリットのある具体的な協力のあり方を検討・実施していく。

また、事業で活用することを目的として、①水生生物、②いきものみつけファームの活動を通じた経済社会の循環をテーマにしたDVD教材を制作する。

※1自己評価(事業実施率)欄は、「A」90%以上、「B」70~89%、「C」50~69%、「D」49%以下で示すこと。

※2自己評価(事業効果)欄は、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある